

令和 6 年度 福岡美容専門学校 福岡校

学校自己評価 報告書

(自令和 6 年 4 月 1 日 至令和 7 年 3 月 31 日)

福岡美容専門学校 学校自己評価委員

委員長 教頭 吉野 和子

委 員 広報室長 前原 洋史

事務局次長 小田 亮介

サロン事業部課長 小山 隆史

教務企画課長 増田 葉子

教務企画 福原 菜美

令和 6 年度 福岡美容専門学校 福岡校 自己評価結果

1. 学校の教育目標

本校は、福岡県下 2,700 店舗の美容室が加盟する福岡県美容生活衛生同業組合が設置した美容学校です。後継者を育成して美容業界のさらなる発展に寄与するという理念のもと学校運営を行っています。

<教育方針>

お客様の幸せや喜びのために、常に美容の技術を磨き、お客様に永く愛され、必要とされる人材を育成し、送り出す。

◇基礎・基本技術を備えた人材の育成

◇礼儀やマナーが備わった人材の育成

<校訓>

愛美 ・ 創造 ・ 鍛錬

人を美しくし、笑顔や喜びを提供できる職業に誇りを持ちます。

美容の仕事を通じて、創造力を養い、可能性に挑戦します。

基礎・基本を身に付けるため、『心・技・体』を鍛えます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

すべてのステークホルダーから高い評価と支持される学校を目指す。

迫り来る『少子化』に全職員知恵を出し、対策を立て実行する。

(1) 教育方針を踏襲するために、教育に直接携わる教員の質の向上を図る

(2) 学生募集、充足率 100%を目指す

通信生募集のあり方を検討する（折尾愛真高校美容専科コース、一般通信生）

(3) 国家試験合格率 100%を目指す

(4) 就職率 100%を目指す

(5) 美容組合の歴史や美容業界の教育を行い、業界発展の認識を深めさせる

(6) ICT を活用した授業の促進

3. 評価項目の達成及び取組状況

【評価 適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1 】

(1) 教育理念・目標

評価項目	自己評価
A、学校の理念・教育方針・育成人材像は定められているか	4
B、学校における職業教育の特色は何か	4
C、社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
D、学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
E、各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

- ・学校と業界の間にギャップがある場合、学生は実際の業界ニーズに適応しきれない可能性がある。
また、企業や美容業界でも新しい技術が次々に登場しており、AI や VR、AR、デジタル化が進む中で、美容学校はこれらの技術を教育課程に取り入れ、学生に最新のスキルを提供できるかが問われる。

②今後の改善方策

- ・美容業界のプロフェッショナルと連携し、業界で求められるスキルや知識を直接反映させたカリキュラムを設計する。
- ・デジタルツールや最新機器を使った実践的なカリキュラムの整備。例えば、バーチャルメイクや AR 技術を使った学習ツールの開発など中長期計画のもと進めていくことが必要である。

③特記事項

- ・今後さらに多様性への配慮と国際化が予想されるため、①グローバル対応（外国語教育、海外研修プログラムの強化）②ジェンダーや文化の多様性に対応した美容技術・接遇の教育も今後の課題である。

(2) 学校運営

評価項目	自己評価
A、目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
B、事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
C、運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
D、人事、給与に関する制度は整備されているか	3
E、教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
F、教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
G、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・給与に関する規定は整備されているものの、人事評価については明確でない部分がある。将来に向けた人材育成と、ES（従業員満足度）向上のため、評価制度の見直しが急務である。
- ・学内の稟議は現在も紙ベースで行われており、ペーパーレス化による経費削減と、決裁までの時間短縮のため、ワークフローシステム導入の検討を続けているが、具体的な実施には至らなかった。

②今後の改善方策

- ・人事評価制度の見直しは、令和 6 年度の後半より着手しており、令和 8 年度からの運用を目指して継続して行う。
- ・ワークフローシステムについては、各社より提供されているサービスを比較検討し、採用するサービスと導入スケジュールを早期に決定させる。

③特記事項

特になし

（3）教育活動

評価項目	自己評価
A、教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
B、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
C、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
D、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
E、関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
F、関連分野における実践的な職業教育を目的とした実務実習（インターンシップ）が行われているか	4
G、授業評価の実施・評価体制はあるか	4
H、職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
I、成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	4
J、資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
K、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
L、関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含め）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
M、関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
N、職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

- ・美容業界は常に進化しており、最新のトレンドや技術を教育に取り入れることが求められる。特に、現場で即戦力として求められるシャンプー技術や接客マナーの修得を通じ、学生の理解と自信を育むことが必要である。したがって、業界が求める実践的なスキルと学生にとっても魅力的な内容の両方を兼ね備えたカリキュラム構築が課題である。
- ・教員の人員については現時点で充足しているものの、余裕がある状況ではなく、将来的な人材確保と負担軽減が課題である。
- ・教員に向けた現場技術の習得を目的とした研修や、ICT授業の質を高めるための研修等を実施しているものの、職員全体の能力開発に向けた包括的な研修体制については、さらに検討の余地がある。

②今後の改善方策

- ・現在も実施している定期的な学生アンケートや外部講師からの意見収集を継続し、授業内容や進め方を柔軟かつ継続的に見直していく。これにより、サロンのニーズに即した実践的な内容と学生の興味・関心を引き出す授業とのバランスを取ることを目指す。
- ・教職員の働きやすさを向上させることで、定着率を高めるとともに、外部からの新たな人材の応募意欲を促進させる。既存教員のスキルアップやマネジメント能力向上を図ることで、質の高い指導が可能な組織づくりを推進する。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目	自己評価
A、就職率の向上が図られているか	4
B、資格取得率の向上が図られているか	4
C、退学率の低減が図られているか	4
D、卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
E、卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・卒業生の追跡調査の不足が挙げられる。卒業後のキャリアパスや職場での定着状況、キャリアアップの状況を継続的に追跡する仕組みが十分に整備されていない。
- ・卒業生や雇用先からのフィードバックを収集する仕組みが限定的である。

②今後の改善方策

- ・教育成果の可視化とデータ分析（卒業生の離職率・昇進状況・資格取得等）
- ・卒業生へのアンケート実施や SNS・同窓会組織との連携、雇用先との定期的な意見交換会を実施するなど、卒業生フォローアップ体制の整備を進める。

③特記事項

- ・美容業界で活躍している卒業生の情報取得と連携により、卒業後の関係性構築に努めている。

入学者数と退学率、就職率、国家試験合格率 資料①										
入学年度	入学者数	卒業者数	退学数	退学率	休学数	就職者数	就職率	国家試験 受験者数	合格者数	合格率
R2 年度生	320 名	292 名	27 名	8.44%		270 名	97.3%	292 名	291 名	99.65%
R3 年度生	317 名	296 名	21 名	6.62%		277 名	93.5%	296 名	289 名	97.63%
R4 年度生	320 名	288 名	32 名	10%		280 名	97.2%	288 名	281 名	97.56%
R5 年度生	320 名	301 名	18 名	5.62%	1 名	292 名	97.0%	300 名	297 名	99.00%
R6 年度生	320 名									

(5) 学生支援

評価項目	自己評価
A、進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
B、学生相談に関する体制は整備されているか	4
C、学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
D、学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
E、課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
F、学生の生活環境への支援は行われているか	4
G、保護者と適切に連携しているか	4
H、卒業生への支援体制はあるか	4
I、社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
J、高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

①課題

- ・学生の生活環境支援については、より広範かつ深い取り組みが求められる。
- ・高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みについては、比較的新しい分野であるため、単発的なイベントや職場体験に留まり、継続的・計画的なプログラムになっていないことがある。

②今後の改善方策

- ・遠方で通学困難な学生への支援体制を強化し、住まい・生活相談などを充実させる。
- ・高校との連携については、訪問活動や、美容の仕事を知り職業体験ができる出張授業などを通じ、関係構築を進め、高校生への早期キャリア教育の場を提供する。

③特記事項

- ・各項目において、体制が十分に整備されており安定した成果が出ている。特に就職支援に関しては高い就職率を維持しており、業界との連携も良好である。
- ・メンタルサポートや健康管理の面でも、公認心理師・臨床心理士などの資格を持つ専門スタッフや外部機関との連携が充実しており、安心して学生生活を送れる環境が整っている。

(6) 教育環境

評価項目	自己評価
A、施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
B、学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
C、防災に対する体制は整備されているか	4

①課題

- ・3棟の校舎により教育環境は充実できているが、校舎間の移動が発生している。敷地は一部離れているため移動に際して一般道路の使用となり、事故等に遭遇する恐れがある。移動時の注意喚起の徹底が必要である。

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

特になし

(7) 学生募集

評価項目	自己評価
A、学生募集活動は、適正に行われているか	4
B、学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
C、学費は妥当なものとなっているか	4

①課題

- ・学生募集活動において、美容業界理解と学びの内容を正しく伝え、また、技術習得の楽しさや難しさを体験できるイベントを設けている。学費は教育内容と照らし合わせて妥当であるが、教材については毎年内容の見直しを行っているものの、物価高騰の影響を受け値上げせざるを得ない状況となっている。

②今後の改善方策

- ・入学前の学費説明会の充実を図る。
- ・美容業界を理解していただくための取り組みとして、入学対象者に限らず幅広い世代に向けて魅力を発信していく。これから社会で活躍する若い世代への啓蒙活動と育成に励む。

③特記事項

特になし

(8) 財務

評価項目	自己評価
A、中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
B、予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
C、財務について会計監査は適正に行われているか	4
D、財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

- ・学校事業における収入のほとんどは学費である。昼間課程において安定した入学者数を確保できていることから財務は安定していると言えるが、今後さらに加速する少子化や、建物の老朽化に備えて引き続き計画的な予算策定が必要である。

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

- ・学費に関して、奨学金（給付型）受給者の増加に伴い修学支援制度適用も増加している。修学支援制度適用に際して授業料の減免が複雑化し、学費（授業料）請求の猶予措置や処理に苦慮している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	自己評価
A、法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
B、個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
C、自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
D、自己評価結果を公開しているか	4

①課題

- ・全ての項目で良好に実施、管理されており、適正な運営と情報公開を今後も継続していく。

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価
A、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
B、学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
C、地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

①課題

- ・ボランティア活動のための時間確保と学業の両立が問題である。また、交通費や道具代の自己負担が、金銭的に余裕のない学生には参加のハードルを上げてしまう場合がある。

②今後の改善方策

- ・学校と地域社会が連携してボランティア活動の機会を増やし、活動の認知度を高めるための工夫が必要。また、ボランティア活動の意義を学生に伝えるとともに、将来のキャリアにどのように役立つかを示すことで、学生のモチベーション向上に繋がることを期待する。

③特記事項

- ・美容学校生が社会貢献や地域貢献を通じて地域社会とのつながりを深め、業界全体のイメージアップにもつながることが期待されるため、社会貢献・地域貢献は重要と考える。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

項目(1)から(10)に沿った適正な学校運営ができており、このことが近年の入学希望者の増加にも繋がっていると考えられる。しかしながら学生募集においては、年々少子化が進んでおり、企業・大学・他の専門学校との競争は熾烈を極めている。学校が更なる発展を目指すには、教職員の育成が第一と考え、講習等を通じ教職員の質の向上に取り組む必要がある。

今年度、コミュニケーション能力および技術力の向上を目的として2年次のクラス替えを初めて実施した。学力・メンタルの両面から今後数年かけて良否を判断していき、その他の施策と共に常に時代に合った教育を提供していきたい。

以上